

ボート遭難事故

野瀬 隆平

鎌倉の由比ヶ浜に仲間との合宿で一泊した。次の日、辺りを散策することになり、極楽寺や成就院を訪ねたあと稲村ヶ崎へと向かった。

ここには、見るべきものがいくつかあるが、その中にボート遭難の碑がある。開成中学校の生徒が、逗子の海岸から江の島に向けてボートをこぎ出した。明治四十三年一月のある朝のことである。目的は、闇鍋の食材として鳥を捕獲するためだ。

ボートが七里ヶ浜の沖合にさしかかったとき、強風のために転覆して乗っていた十二人全員が亡くなったのである。この辺りは、冬にしばしば突風が吹くので地元の漁師にも恐れられている場所だった。

乗っていたのは、中学生とはいっても旧制であるから、五年生ともなるともう大人である。悲劇的だったのは、同じ家の子弟、四人全員が亡くなったことだ。五年生の長男十九歳を頭に、次男十五歳、三男十四歳、それにまだ小学二年生だった十歳の四男ある。

実はこの生徒たち、学校のボートを無断で持ち出し、しかも七人乗りのボートに十二人も乗っていたのだ。云って見れば、あまり好ましくない生徒たちが引き起こした事故で、学校としては不名誉なことであった。事実、指導教諭は辞職させられている。

後年行われた慰霊祭で校長は、

「事故が重大なルール違反により起こったことも忘れてはなりません。」

と言っている。

この事故を歌ったのが「七里ヶ浜の哀歌」である。開成の系列校である鎌倉女学校の教諭がアメリカのメロディーにのせて作詞したものだといわれている。

真白き富士の根 緑の江の島 仰ぎ見るも 今は涙

事故の合同葬で女学校の生徒たちが鎮魂歌として合唱したものだが、後にレコードが発売されたことで、広く知られるようになった。しかし、先に書いたように学校としては不名誉な出来事であり、学校でこの歌を唄うことが禁止されていた時期もあるという。

稲村ヶ崎で、我々が目にしたのは富士の姿ではなく、白波の立つ荒れた海とその奥に浮かぶ江の島であった。